

サクラソウ通信 NO9

<秋の植えつけ>

2018、11月

富士山も白く冠雪し 秋も深まりつつあります。さくらそうはどうなっているでしょうか。春に可愛らしい花を咲かせたことを思い出してください。夏は葉がすっかり枯れてしまい休眠期にはいつてしまっても、根茎が土中で生きています。

さて、11月に植えつけをする人も多いようです。関東、九州地方の愛好家に多いそうです。(NHKの趣味の園芸による)なぜ、11月に行く人も多いかという、2月の厳寒期に比べて、作業が楽であるということです。



11月に芽を分け、植えつけをしたものは冬を越さなければならぬので、管理に注意がいらぬ。

植えつけしたさくらそうの環境はどんな状態でしょうか。

- 1 鉢に植えつけた際、あるいは路地植えでも、培養土は新しいもので、柔らかいため、当然、寒さや凍てにより、芽が浮き上がることがある。といつても深植えすると芽や根が腐り、枯れ死することがあります。
- 2 寒さに向かうため、植えいたみの苦痛を負います。
- 3 冬季はよく乾燥します。反面、雨や降雪により水浸しになることもあり、年によつても乾湿や寒暖に変化があり、最も悪い条件となることもあります。

これらの対策はなるべく気温の変化を少なくするために、落ち葉をかけるとか、日よけの利用、または置き場所について考慮するようにし、静かに越冬させて春を迎えます。

2月の植えつけで自分が困つたと思つるのは寒さで鉢が凍ってしまうことです、土が解けるまで待たねばならぬので 仕事ははかどらぬ。でも、植えつけ後の管理が、秋植えよりらくであるので春の植えつけを勧めます。

11月の花 人字草



桜草自生地田島が原